

農業気象

講師名	岡田 益己	実務経験等	農林水産省農業技術研究所、東北農業試験場、岩手大学教授などの勤務経験を活かし、気象の特性と作用、気象情報の活用方法や環境調節等について講義を行う。
-----	-------	-------	---

科目区分	学科・経営科	必修・選択 (必修、自由)区分	履修 学年	開講 学期	標準 時間	単位数
全学科共通・専門科目	全学科	必修	1	後期	15	1
使用教科書・副教材	必要に応じて資料を提示する。					
授業の目的	作物の栽培・生産は気象に大きく左右される。農耕地の気象の成り立ち、作物の生育と気象の関係、気象災害とその対策、ハウス環境制御、気候資源の利活用、地球温暖化などの基礎知識を養うことを目的とする。					
授業の到達目標	気象の特性と作用を理解し、気象情報の活用方法や環境調節等の知識を身につける。					

月日	学習項目	学 習 事 項	時間	授業 形式	備 考 (提出物等)
10月23日	身近な気象の理解	気象情報の活用法、農耕地の気象の成り立ちや熱の流れ、植物にとって暑さ・寒さとはなどを学ぶ。	4	講義	PCプロジェクトとインターネット
12月4日	作物と気象	東北地方の気象と作物の生育との関係、稲の冷害や野菜の凍霜害が起こるメカニズムとその対策を学ぶ。	4		
12月11日	ハウス環境制御	ハウス被覆資材の特性、ハウスの暖房、換気、冷房など環境調節の基礎知識を学ぶ。	4		
12月18日	気候資源の利活用、地球温暖化	寒冷地の気候を利用する農業技術の仕組みやその特徴を学ぶ。地球温暖化の原因、今後の予測、その影響と適用方策について理解を深める。	4		
		合計	16	時間	

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)
講義終了後にレポートによる評価を行う。 評価割合: レポート(提出課題)70%、出席状況・レスポンスカード30%。
履修に当たっての留意点等
授業はスライドと板書で行う。